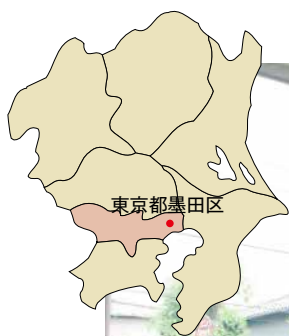


東向島珈琲店



◎喫茶店

人と人との出会いが生まれる下町の人気カフェ

東京スカイツリーにほど近い場所にある東向島珈琲店は、さまざまなメディアで取り上げられる下町の人気カフェである。「時間、空間、仲間が上質になる場を提供する」というコンセプトの同店は、周辺の企業経営者やクリエイターたちが集う場であり、そこで生まれるアイデアや企画によって、地元全体に来訪者が増え、地域活性化に貢献している。

経営者は“元ホテルマン”

東京の下町にあるカフェ、東向島珈琲店の店主である井奈波さんは、地元墨田区の出身で、飲食店を営む父母の姿を見て育った。いつしか自分もお客さんを喜ばせるサービス業の仕事に就きたいと考えるようになり、進路はホテルの専門学校を選んだ。卒業後はホテルに就職し3年間勤務したが、自分でカフェを経営したいと思い立ち退社。コーヒーの淹れ方や菓子作りを学ぶため、都内の有名

なカフェで9年間の修行を積み、2006年に現在の店をオープン。以来10年間、徐々に売上を伸ばし、現在ではパート・アルバイトを6名雇用するまでに至っている。

オープン当初の客層はほぼ地元客であったが、おいしいコーヒーやスイーツ、そして、寛げる空間が評判を呼び、雑誌やインターネットの情報サイトで「下町の人気のカフェ」として紹介されることが多くなった。今では3割程度が遠方からのお客さんだという。

地元事業者と連携したイベントや企画で地域を活性化

開業当初から「時間、空間、仲間が上質になる場を提供する」ことをコンセプトに掲げている井奈波さんは、地域の人々とのつながりを作ることを強く意識してきた。近年、墨田区の同地区では、地元の事業者と住民が連携する企画が複数立ち上げられているが、その中心メンバーの一人が井

奈波さんである。たとえば、地方の農家に参加してもらって青空市開催の手伝いをしたり、地元のアパレル企業やデザイナーとのコラボレーションで衣服を製造・販売したりするなど、さまざまな企画を推進してきた。

近年では、店のお客さんに評判のドレッシングを商品化したが、商品のラベルを制作するにあたっては地元のコピーライターやデザイナーの協力を得、できたラベルをボトルに貼る作業は区内の福

人と人との出会いを作り 地域連携の基点となる



元の活性化や認知度向上を共通の目標としていますが、これまでの取組みによって、この地域を訪れる人が増えたと、皆、感じています」と語る井奈波さん。

また連携する中で知り合った人たちの紹介で、さまざまな生産者から上質な食材を仕入れることもできるようになり、新たなカフェメニューが生まれることも多いという。「信頼できる生産者を紹介してもらえることは、とてもありがたいです。品質の良い食材を使った新しいメニューを出すと、既存のお客様のリピー率も上がり、スタッフのモチベーション向上にもつながります」と井奈波さんは微笑む。

社作業所に発注した。同店内で販売するほか、地元商店に赴き井奈波さん自らが陳列して販売したり、墨田区の商品を中心に扱う地元の通信販売会社にインターネットでの販売を任せたりして、今では日本全国から注文が入っているという。この地元の連携によって生まれた「下町の小さなカフェのドレッシング」は、2015年には「すみだ地域ブランド推進協議会」が認定する「すみだモダン」ブランドの商品に認証された。ちなみに「下町の小さなカフェ」というネーミングには、その商品に接した人が「どこの下町のどんな店だろう」と同店や同地域に興味を持ち、実際に訪れるきっかけにしておこうというねらいがあるという。

「多少の手間や苦労があったとしても、いろいろな人たちと協力して何かを作り上げる過程には、仲間と同じ目標を共有できる喜びがあります。地

外国人観光客に向けたメニューを制作

同店の周辺地域は東京スカイツリーに近く、近年、外国人観光客も増加してきた。2013年、井奈波さんは地域住民や外国人観光客に地元の「食」をPRすることを目的とした「食のまちめぐり推進事業実行委員会」の委員に就任。2015年には委員長に就任し、すぐに外国語のメニューを制作、配布することを計画した。地元のクリエイターの

協力を得て、区内の飲食店50店舗で英語のメニューを配布したところ、外国人観光客からの評価は高く、その後、中国語のメニューも用意したという。店を訪れた外国人観光客が店舗や料理の写真をSNSにアップし、それを見た外国人が同地域を訪れるという好循環が生まれ、欧米や香港・台湾からの観光客が増えているとのこと。

なお同店では、増加する外国人観光客への対応として、現在クレジットカードの決済システムを導入する準備を進めている。

地域の中で人々が出会う場を作り続ける

「最近では東京の下町文化、カフェ文化、デザイン文化などが海外で紹介されることが増えてきました。今後は、東京スカイツリー目当ての団体のお客様だけでなく、文化的なテーマに興味を持つお客様を意識した情報発信も充実させたいと考え

ています」と語る井奈波さん。一軒家を改築したゲストハウスなどと組んでツアーを開催するなど、より多くの人々に同地域の魅力を伝えるプランも構想中だ。

今後もこれまで通り人々の出会いが生まれるカフェを運営し、地域全体の活性化を図ることで、より多くのお客様を迎えたいと井奈波さんは考えている。

● Profile

東向島珈琲店

代表者 井奈波 康貴 (いなば やすたか)

所在地 東京都墨田区東向島1-34-7

創業 2006年

従業員数 6人(うちパート・アルバイト6人)



代表者 井奈波 康貴さん